

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はやや弱含みとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、緩やかな改善傾向に一服感がみられる。

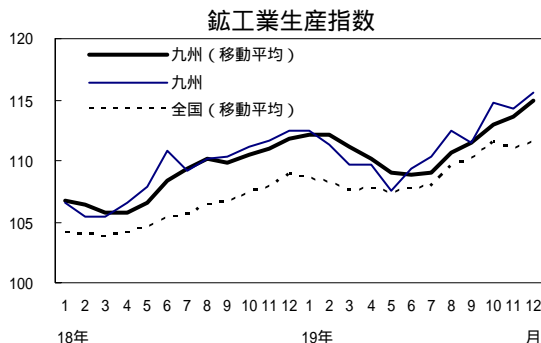
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 19 年 11 月）	今回（平成 20 年 2 月）	
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向	依然として厳しい状況であり、緩やかな改善傾向に一服感	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

電子部品・デバイスは、ゲーム機向けのモス型計数回路（ロジック）や、デジタルカメラ向けの CCD、車載向けの高付加価値 LSI などが好調だったことから増加している。輸送機械は、船舶は高水準の受注残を抱えフル操業を続けており、自動車では新型車投入効果から国内外向け共に好調だったことから、全体でも大きく増加している。一般機械は、フラットパネルディスプレイ製造装置や半導体製造装置において、一部に生産調整の動きがみられたことから減少している。食料品・たばこは、前期に猛暑の影響から清涼飲料水が大きく伸びた反動で減少している。化学は、医薬品が不調だったことから減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電子部品・デバイス	14.9	0.4	5.2	7.1	20.0
輸送機械	11.7	14.5	20.0	16.6	25.6
一般機械	11.0	1.2	4.6	5.1	10.9
食料品・たばこ	10.8	2.4	6.2	5.0	7.1
化学	8.5	4.0	2.7	2.6	2.0
鉱工業	100.0	2.4	3.1	3.3	2.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

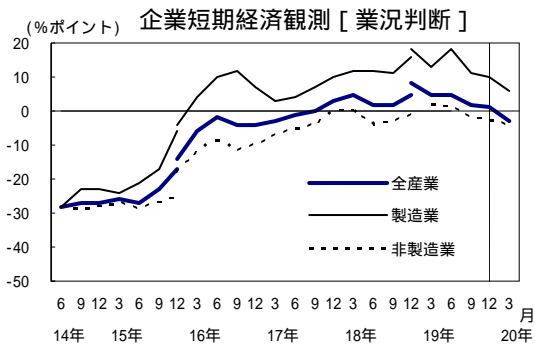
2. 10~12月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

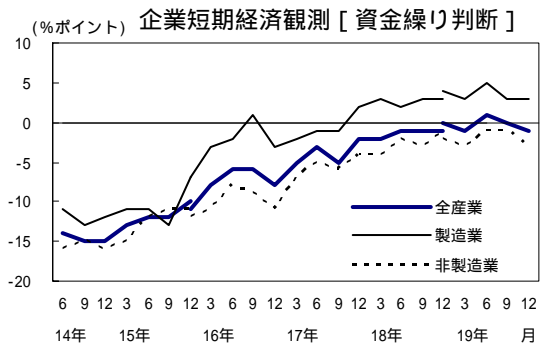
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「苦しい」超となっている。

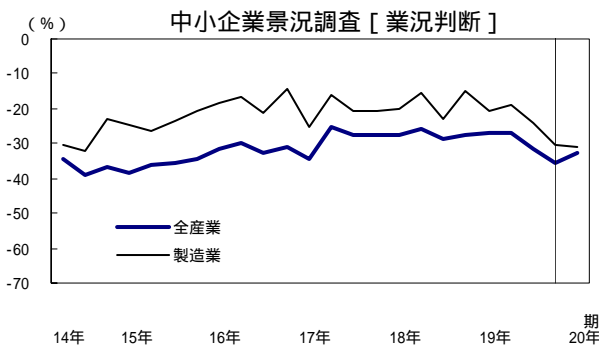
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年3月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

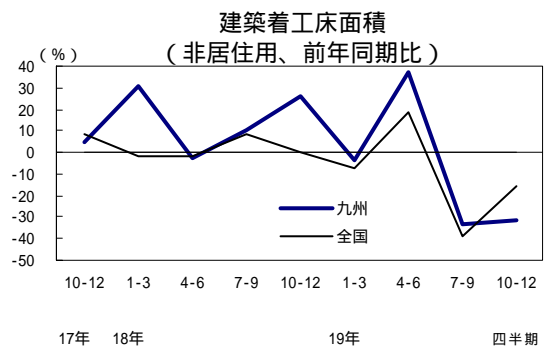
「取引先における設備投資意欲のパロメーターとも言える引き合い案件がここに来て大幅に減少している。また、案件も小口化してきている(その他サービス業[物品リース])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	7.7	20.1(0.6)
製造業	13.0	38.8(0.5)
非製造業	3.8	8.0(0.7)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含みとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

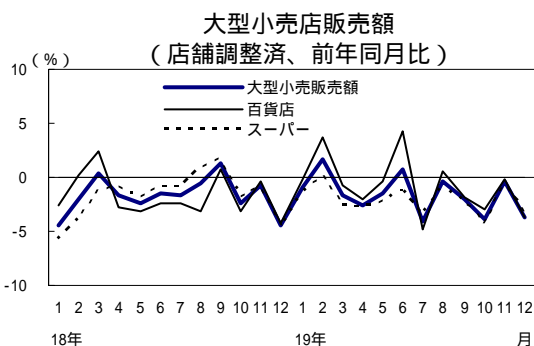
百貨店は、10月は、物産展など催事効果で飲食料品に動きがみられたものの、月前半に気温が高めに推移したことから秋冬物の衣料品、身の回り品の動きが鈍く、全体としては前年を下回った。11月は、一部店舗の改装効果や歳暮ギフトの早期受注が好調だったことから飲食料品は前年を上回ったものの、コートやジャケットといった主力の冬物衣料品の動きが鈍く、全体では前年を下回った。12月は、セール前の買い控えや歳暮ギフトの早期受注の反動などで衣料品、飲食料品共に動きが鈍かったほか、株価下落の影響から高級バッグやアクセサリといった高額品の動きも鈍く、全体としては前年を下回った。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の1月の売上高は前年同月比で3.0%の減となっている。

スーパーは、野菜、精肉、総菜など飲食料品に動きがみられたものの、気温が高めに推移したことから衣料品の動きが鈍く、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「ギフトお買得セールなど割安感のある催事は大盛況だが、例年盛況だった駅弁大会や質流れ市などし好性の高い催事は伸び悩んでいる。し好品、ぜいたく品の購入意欲の減退傾向が一層強くなっている(百貨店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

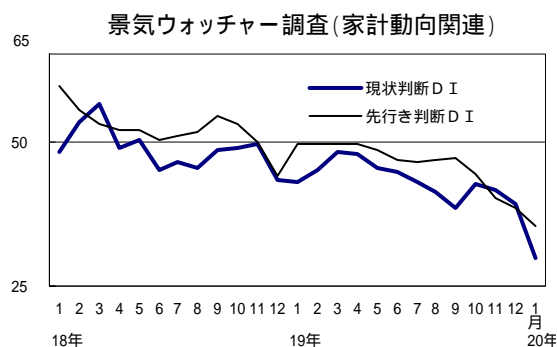
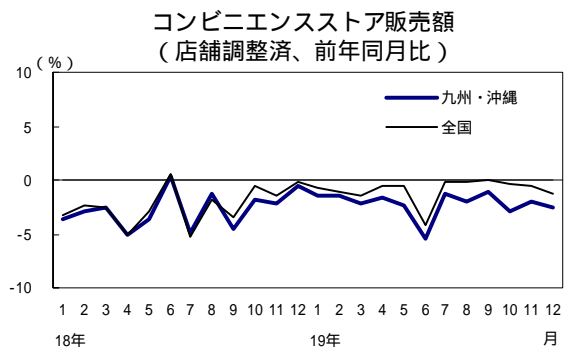


	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	0.5	1.1	2.3	2.7
百貨店	0.7	0.5	2.4	2.4
スーパー	1.3	2.1	2.2	2.9
コンビニ	1.7	3.2	1.5	2.5
景気ウォッチャー	45.4	45.9	40.8	41.1

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

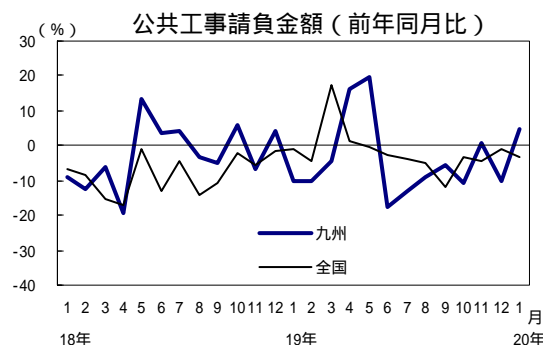
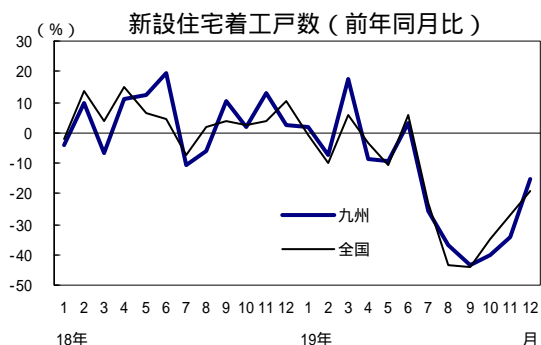
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

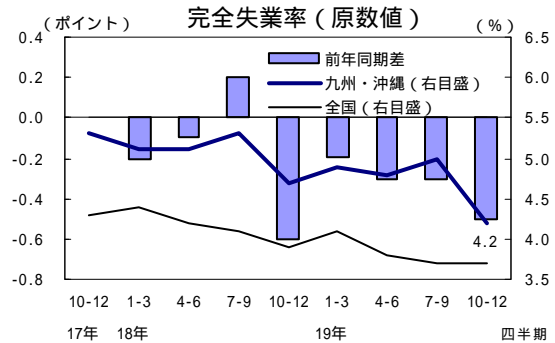
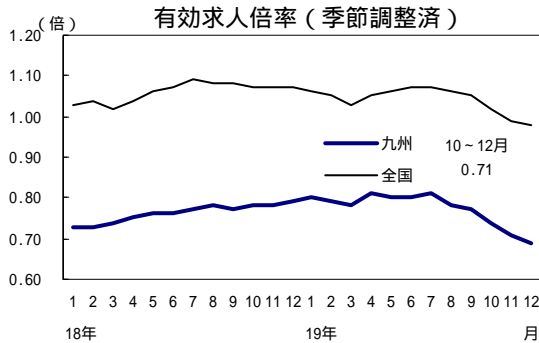
持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、緩やかな改善傾向に一服感がみられる。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

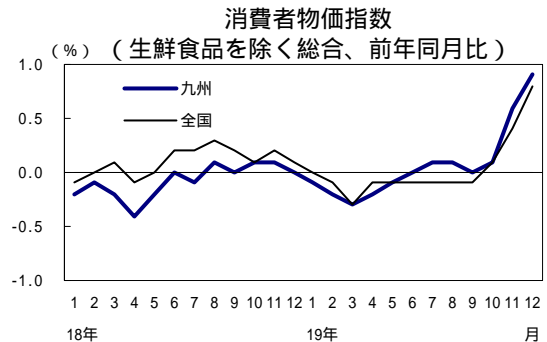
「アメリカのサブプライムローン問題の余波で輸出関連の製造業からの求人募集が減少気味である。また改正建築基準法施行による住宅着工の減少で、住宅関連業界の求人募集も減少気味である(新聞社[求人広告])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	20年1月
倒産件数	268	326	321	310	83
(前年比)	3.5	14.0	19.3	10.3	2.4
負債総額	706	1,010	892	1,523	274
(前年比)	43.9	1.0	84.6	46.8	23.4



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・半導体を含む電子部品関連全般で、大手、中堅企業とも今年度に入って非常に動きが鈍くなっている。精密機械部品も同様に先行き不安感が増している(電気機械器具製造業)

<先行き>

- ・来年度の折衝案件をみても、件数、金額共に景気回復を感じさせるものはない(通信業)

